

空前絶後の円安の影響

年末年始に下がっていた相場が1月後半に上がって、ゼロ金利政策を止めるとなると少し円安が緩和されて相場が下がり始めたのに、直ぐに金利が上がる訳ではないので、アメリカとの金利差が埋まらないからと再度円安が進んだので、またもや中古車相場が上がりました。

あとは輸出規制されているはずのロシア向けの車両が、どうも韓国経由で輸出が延びているらしく、韓国には自動車メーカーがあるので殆ど中古車は日本から輸出されていなかったのですが、ロシア向け車種の輸入台数が一気に増えているので、これはもう間違いないな、という事になっております。韓国もアメリカの同盟国なのでいつもの経路とかあの手この手で需要の多い日本の中古車をロシアは手に入れようとしているみたいで、やはり中国メーカーの新車よりも中古でも日本車が大人気の様ですね。

『新車納期情報』

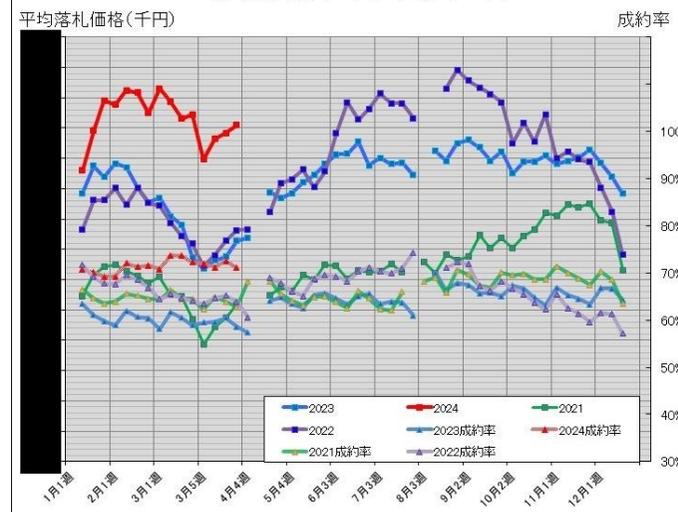
トヨタの一部車種（ランクル系・ノア&ヴェオクシー・アルファード&ヴェルファイア）がオーダーストップになっていますが、他の車種は少しずつ早くなっています。他メーカーは遅くても2〜3ヶ月待ちというのも増えてきました。

とはいえコロナ前よりはまだまだ時間がかかるので、買い替えの検討はお早めに！



↑スマホはこちらから

相場推移グラフ(国産車のみ)



まずは今の値段を知る事が大事です！年式や走行距離に拘わらず、お気軽にお問い合わせください！

TEL 0120-14-2236

ホームページからは <https://forza-e.com>

新車ディーラーの下取り



走行距離10万km超



買い替え時期



まずは、愛車の『今の値段』を知ることが大事です

査定は無料！
大体のお値段の確認だけでもOKなので是非、お気軽にご連絡ください！



車は何年乗ったらどれくらい下がるのか？

人気のSUV『ハリアー』で検証してみた。

現行型はまだ3年程度なので、旧型の売れ筋グレード、装備等も殆ど同じに絞り込んで、距離は年数なりに増やして、評価点は変わらず4.5点以上の綺麗な状態としてオークションの落札額を見たうえで、現時点（2024年4月26日）での買取り金額の目安を比較表に落とし込んでみました。

トヨタ・ハリアー・2.0プレミアム（ガソリン車）・型式ZSU60W						
評価点4.5点以上・ナビ有り・サンルーフ無し・エアロ無し で統一した場合の目安です。						
年式	平均距離	評価点	買取り金額	年落ち	前年比	備考
2020	3万 km	4.63点	210万円	4～		
2019	3.86万 km	4.5点	200万円	5～	△10万円	
2018	5.27万 km	4.5点	180万円	6～	△20万円	
2017	6.86万 km	4.5点	170万円	7～	△10万円	後期モデル
2017	7万 km	4.5点	140万円	7～	△40万円	前期モデル
2016	7.9万 km	4.5点	130万円	8～	△10万円	
2015	9.02万 km	4.5点	115万円	9～	△15万円	

*2017年のみ2段あるのは、衝突軽減ブレーキが標準化されるマイナーチェンジがあった年のため差額が大きいです。

*あくまで買取り金額のみなので、乗り続けると車検代やタイヤ・バッテリー交換代などのメンテナンス費用も実質は資産減額みたいなもん(?)

4年落ちと10年落ちの6年間で95万円の下落、その間に車検が3回あって、掛かったお金を入れるとあんまり考えたくはないですね(苦笑)。1年間で1番大きく値段差があるのが、マイナーチェンジを挟んでいるとはいえ2018年式と2017年式の40万円。車種によってはマイナーチェンジとか関係なく〇年目の後半に数十万円の値下がりがある車もあるので要注意です。 ちなみにハリアーの様な超人気車種なのでこれ位の下落で済んでいますが、大抵の車ではもっと値下がりすると、新車の納車待ちが解消されていないのに空前の円安で相場高騰中の金額ですので、数年後にこの金額は参考にしないでくださいね。

参考までですが2021年式の現行型ハリアー、2.0Z（型式MXUA80）、平均距離2.5万キロ、平均評価点4.66、あとは同条件だと310万円なので、100万円もの差額が出ています！いくら値引きが多くても、余程好きな車か乗り潰すつもりが無いならフルモデルチェンジ前の車を買わずに新型を待った方が良さそうですね。*最近ではモデルチェンジごとに大幅値上げがあるの難点ですが。。

* 新車も中古車も買取りも、まずはご相談を！ 0120-14-2236

